

都市再生整備計画 事後評価シート
蟹甲・米野木地区

平成23年3月

愛知県日進市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	日進市		地区名	蟹甲・米野木地区			面積	530ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	2,483百万円		国費率	0.224				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路(市道南荒田・追鳥線、市道南荒田2号線他1路線、市道蟹甲新田中島1号線、市道栄本郷線) 地域生活基盤施設(米野木駅前駐輪場) 高質空間形成施設(米野木駅前広場、天白川堤防道路カラー舗装) 高次都市施設(地域交流センター)										
			提案事業	地域創造支援事業(図書館建設事業、巡回バス車両購入) まちづくり活動推進事業(里山を支える人づくり事業)										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	—			削除/追加の理由			—				
			提案事業	地域創造支援事業(のんびり村整備事業)			都市計画法改正により、市街化調整区域内の公共公益施設においても建築行為が困難となったことから、事業計画を見直したところ、本交付期間に事業の見通しが立たない為削除。			指標への影響はあるが、他事業においてNPO団体の活動を現在も行っており、指標の影響は軽微であるため、指標の変更なし。				
	新たに追加した事業		基幹事業	—			—			—				
			提案事業	—			—			—				
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
		変更	なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	図書館来館者数	人/年	131,339	16	147,000	22	モニタリング	評価値	608,599	○	あり	図書館が新設されたことにより設備が充実されたことや、周辺道路の整備を行ったことにより、図書館までの交通の便が改良され、利用増進に繋がったと思われる。	平成23年6月
												なし		
	指標2	まちづくり活動団体数	団体	105	17	115	22	モニタリング	評価値	225	○	あり	図書館新設や、駅前整備等、地区内での開発行為が進み、地域住民にとってのまちづくりに関する興味・関心が高まり、自発的に活動する組織の結成に繋がったと思われる。	平成23年6月
												なし		
指標3	アダプトプログラムへの参加人数	人/年	0	17	100	22	モニタリング	評価値	540	○	あり	土地区画整理事業や、歩道設置工事、図書館の新設等の公共施設の整備が行われ、1つのまちとして、地域住民の方々にとっての財産が確立され、財産を守ろうとする共通の意識が生まれたことで、参加者数増加に繋がったと思われる。	平成23年6月	
											なし			
指標4	くるりんばす利用者数	人/年	305,732	16	411,000	22	モニタリング	評価値	498,810	○	あり	バス車両の増台や、路線の増改正により利用機会の増加や歩道設置によるバス停までの行動利便性が向上したことがバスの利用者数が拡大されたことに繋がったと思われる。	平成23年6月	
											なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1													
	その他の数値指標2													
	その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道新設、駅前整備、図書館新設などを実施したことにより、安全性、利便性が向上し、地区全体の質的向上が図れ、良好な住環境が形成された。 ・バス車両が増台したことにより、高齢者などの移動制約者の方にも安全で快適な移動手段の確保が確立できた。 ・図書館の様々なサービスに対して、利便性の高さに満足している声が上がっている。 													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況										今後の対応方針等	
	モニタリング		なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた									
	住民参加プロセス		①市民参加による里作りや散歩みちづくり ②新図書館建設に係る住民参加		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
持続的なまちづくり体制の構築		市民等を中心としたまちづくり組織等の立ち上げや持続的な交流・ふれあい活動		都市再生整備計画に記載し、実施できた						●①				
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						●②				
				都市再生整備計画に記載し、実施できた						●				
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
										①母主体を小学校に移し、今後も里山の大切さを学びながら、地域住民の交流の促進を図る。②今後も、住民のニーズを取り入れながら、図書館の改善を図り、より愛着のある施設を目指す。 今後も継続して行い、里山の大切さを学びながら、地域住民の交流の促進を図る。				

様式2-2 地区の概要

蟹甲・米野木地区(愛知県日進市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標:「新旧住民」や「世代」を問わず、誰もが心豊かに安心して暮らし続けることができるように、市民主体の交流まちづくりを促進する 目標1: 交流の拠点・しかげつくりにより、「新旧住民」「世代」間の「壁」をなくし誰もが気軽に交流・ふれあえる機会を増やす 目標2: 交流を創出するネットワークづくりにより、誰もが安全・快適に移動できる空間を確保する	図書館来館者数	単位: 人/年 131,339 H16	147,000 H22	608,599 H22
	まちづくり活動団体数	単位: 団体 105 H17	115 H22	225 H22
	アダプトプログラムへの参加人数	単位: 人/年 0 H17	100 H22	540 H22
	くるりんばす利用者数	単位: 人/年 305,732 H16	411,000 H22	498,810 H22

高次都市施設

- 基幹事業 道路: 市道栄本郷線
- 基幹事業 道路: 市道蟹甲新田中島1号線
- 基幹事業 道路: 市道南荒田2号線他1路線
- 基幹事業 道路: 市道南荒田・追鳥線
- 基幹事業 高質空間形成施設: 米野木駅前広場、天白川カラー舗装

高質空間形成施設

- カラー舗装
- サークルベンチ
- 駅前広場
- キャピアー

道路

- 市道栄本郷線
- 市道南荒田・追鳥線
- 市道蟹甲新田中島1号線
- 市道南荒田2号線他1路線

提案事業

- 提案事業 地域創造支援事業・図書館建設事業
- 提案事業 地域創造支援事業・図書館建設事業
- 提案事業 地域創造支援事業・巡回バス車両購入

関連事業

- 関連事業 土地区画整理事業(特会)・米野木駅前地区
- 提案事業 まちづくり活動推進事業・里山を支える人づくり事業

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

地域創造支援事業

- 巡回バス車両購入
- まちづくり活動推進事業 里山を支える人づくり事業

地域生活基盤施設

- 米野木駅前駐輪場
- 土地区画整理事業(特会) 米野木駅前地区

【達成されたこと(課題の改善状況)】

- ・多様な機能を有した図書館が新設されたことにより、地域住民の活動の「場」が生まれ、さらには、その場で開催される各種イベントを通じて、交流の「きっかけ」も創出できている。
- ・梨の木小学校の児童を中心として、里山を支える人づくり活動を行ったことにより、世代を超えた地域住民同士の交流機会の場が生まれた。
- ・巡回バスの本数増加等の充実を図ったことにより、市内の移動がよりやすくなった。
- ・天白川沿いの道路にカラー舗装を行ったことにより、以前にも増して、通行がしやすくなり、自然ともふれあうことのできる機会が増えた。
- ・交通の要所である米野木駅前の広場の整備を行い、駅利用の利便性が向上した。さらには、駅前駐輪場も整備したことにより、安心・安全、そして円滑に自転車を利用できる環境が整った。
- ・地区内の歩道設置等が必要とされる道路において、整備を行ったことにより、特に通学児童・生徒に対する安全が図られた。

【残された未解決の課題】

- ・今後の区画整理事業の進捗等による、公共施設、交通基盤施設等の整備が進むことに伴い増加する新住民と旧来の住民とのコミュニティ形成を側面的に支援する仕組みづくりがまだ不十分である。
- ・天白川のカラー舗装において、連続性が図れていない箇所がある。
- ・市道南荒田2号線については、歩道が途切れている箇所がある。
- ・区画整理事業がまだ完了していない為、住民が安心・安全に移動できる環境の提供が不十分な部分がある。
- ・公共施設等のハード面の整備を行った結果、ハード面の効果を維持向上するためにソフト面での更なる取り組みが必要となった。
- ・新設された図書館においては、予想を上回る来館者数があり、駐車場台数が不足している。そのため、環境負荷の低減のためにも利用者には公共交通機関により来訪してもらえる様、更なるコミュニティバスの利用促進を図る必要がある。
- ・天白川沿いのカラー舗装により河岸の利用が増すと、川を使った遊び等も増すと考えられるが、今後、河川の水質の問題がより表面化すると考えられる。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ◆ 定期的な住民交流が行える機会の場の更なる提供 : 今後も図書館等で地域住民が交流できるイベントを積極的に開催し、地域間、世代間でのより多くの交流が出来る様に努める。
- ◆ 地域住民の円滑な移動手段の継続的な確保 : 巡回バスの整備により、充実した移動手段が確保されたが、今後は、その高い利便性を維持出来る様、サービス向上のための施策を常時検討していく。
- ◆ 地域コミュニティの活性化 : 新市街地において地域コミュニティが形成し、継続的に醸成していける様、特に新旧住民の交流が円滑に図れる様に、行政として、仕組みづくりを側面的に支援する。
- ◆ 住民の安心・安全を向上するための生活環境の改善 : 交通基盤施設の改善や地元住民による自主的な防犯活動より、生活環境の向上と魅力あるまちづくりを進める。
また、歩道等の連続性が図れていない箇所については、住民の安全・安心を向上するために改善を図る。天白川の河川水質の向上に努め、より安全な環境づくりを行う。
- ◆ 公共交通機関の更なる利用 : 環境負荷の低減を目指すため、図書館等の公共施設へは、公共交通機関により来訪してもらえる様に努める。